

種子島に於ける慣行輪作に就て

出 田 正 夫

農林省農事試験場種子島試験地

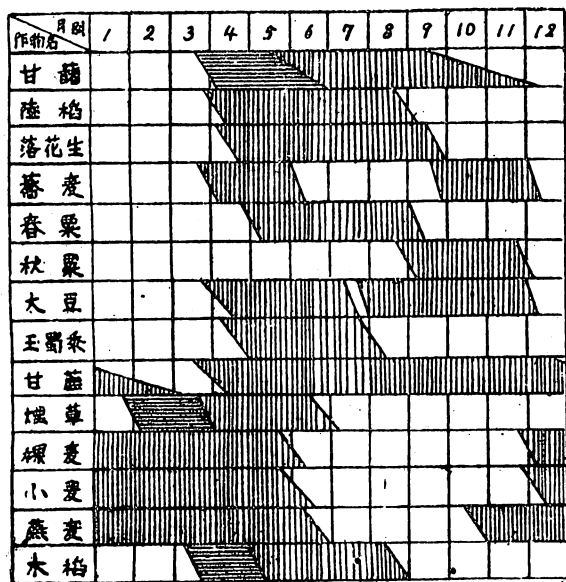
鹿兒島縣種子島は北緯30度に近く、氣候は比較的溫暖多雨であるが、冬季は北西季節風が卓越し、夏季は暴風雨の襲來が多い。地形は全島丘陵性で島の南端に

ある水田の集團地帯を除いては水田は谷間に多く、従つて畑面積が水田面積より廣い。土壤は黑色火山灰に覆われた地帯が多く、燐酸の施用を必要とする。氣候

が温暖である爲と、成熟期に暴風雨を避け且つ病虫害の発生時期を回避する爲に他地方に比べて夏作物の作付時期が早く且つ甘蔗の如き特殊な作物が取り入れられている爲に輪作方式も他と異なる點が多い。

當地方に於て栽培されている作物の生育時期を示すと第1圖の通りである

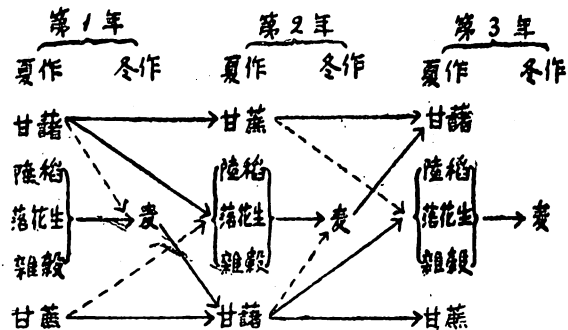
第1圖 種子島に於ける作物の生育期間



この内主として栽培せられているものは夏作では甘蔗、落花生、陸稻及び甘蔗で、冬作は小麦が多く稗麦之れに次ぎ燕麦は酪農地帯に僅かに栽培せられている。

以上の如く甘蔗を除く夏作は3、4月中に作付が行はれる爲に麥の跡作として利用出来るのは甘蔗のみであり、他は前年の夏作收穫跡地に數ヶ月休閑の後植付けられる。

現在一般に行はれている輪作方式を示すと、次の通りである。



註：實線は普通的方式。
破線は稀なる方式。

但し甘蔗は收穫後の株よりの萌芽を利用する株出が行はれる事もあるが、此の場合は甘蔗は2年連作される。

尙特殊なものに切换畑がある。これは地味瘠薄な畑で山林原野を開墾し、甘蔗を夏作し、冬は休閑して、陸稻を夏作すれば、少肥にて極めて生育良好であるとして、好んで用いられている。この畑は耕地として利用價值がなくなると、粟を夏作しそのまま放置して、再び原野或は松の天然下種により山林に復原せしめる。

以上の如く、當地方の輪作は甘蔗の如き特殊な作物が取り入れられている事と、冬期の休閑が多い。土地利用増進の爲には、落花生等の麥間播種、冬作綠肥、なたね或は春作馬鈴薯の導入が考へられるが、冬作の導入に就ては磷酸肥料の十分な施用、馬鈴薯に就ては種薯の確保を前提とする。

尙麥、甘蔗の連作は極端に嫌はれている。